

私書箱

☎100-91

東京都中央郵便局
私書箱 916

AA日本ニューズレター

No.10

AA日本ゼネラル・サービス・オフィス内 広報委員会
TEL03-590-5377 ☎160 東京都豊島区池袋 2-1083 橋ビル 9F

私たちの町のAAから

(代議員及びグループへのアンケートの回答)

総務委員会が出したアンケートに68通の回答が寄せられました。ここに大まかに分類した数と何通かの回答を載せたいと思います。

オープン・ミーティングでメモを取ることにどう思いますか？

[・良い 41 ・悪い 26 ・わからない1]

*メンバーでない人がメモを取ろうが、取るまいが、自由だと思う。メンバーはオープンでもクローズドでも取らない方がよいと思う。

*AAの一体性を支えるのはメンバー及びグループの良心であり、メモというものは本質的に個人的なものであって、広義には言論の自由に属すること。通常のミーティングでは差し支えない。ただし病院メッセージなどの場合は、然るべき配慮を要すると思う。

*メモを取ることはやめてほしい。スピーカーが正直な話ができない。オープンの場合でもアノニミティを守って欲しい。

*メンバーであれば、それを公開しないことを条件にメモを取っても良いと司会者が言えば、良いと思う。メンバー以外は、してもらわない方がいい。はっきり禁止してもよいと思う。メモを取られると不安がるビギナーがいることをお忘れなく。

飲んでいる仲間がきたら、どうしていますか。

[・帰ってもらおう13 ・ミーティングに差しつかえないかぎり良い53 ・白紙 2]

*原則として帰ってもらおう。静かに聞く仲間は別の場所でミーティングを開くようにしています。

*一応受け入れる(酒をやめたいという願望があれば受け入れるべきである)。但しミーティングを妨害するような言動があった場合は退場してもらおう。

ステップ・ミーティングをやっていないグループはAAグループとは言えませんか

[・言えない19 ・言える 41 ・分からない8]

*他のグループのことは何とも言えませんが、回復のプログラムとして提示されたステップとうたってあるのでやった方がよいと思う。AAグループとしては、やっていない所はAAではない。

*ステップ・ミーティングは、ミーティングの一つの形式にすぎないと思う。ステップ・ミーティングと銘打たなくとも、事実上ステップをとりあげないミーテ

ィングはないのではあるまいか。ステップを軽視するわけではないが、それより伝統ミーティングをやった方がよい。

クローズド・ミーティングにノン・アルコールックが来たとき、どうしていますか。

[・オープンに切りかえる 26 ・メンバーに相談してオープンにするか決める 20 ・帰ってもらおう 10 ・白紙/その他 12]

オープン・ディスカッション・ミーティングではノン・アルコールックに話をしてもらった方がよいのか、してもらわない方がよいのかどちらですか。

[・してもらおう 38 ・ケースバイケース/自由(お任せ) 13 ・してもらわない 8 ・白紙/わからない 9]

ミーティングやその他のAAの集りで、写真がとられていることに問題はないですか。

[・問題あり 36 ・問題なし/とってよい 27 ・白紙/ わからない 5]

*仲間うちならばフェロ・シップのメリットは大きい。ただし、たまに無断撮影を嫌がるメンバーがいるから配慮を要す。マスコミ関係者の写真撮影は論外。

バースディミーティングでお金を使いすぎていませんか。

[使い過ぎ10 ・問題なし 47 ・バースディミーティングをやっていない 11]

*ショートケーキでやったらお金を使い過ぎて、次からは差入の菓子でやっています。

*使い過ぎている。グループ会計上、月当たり総献金額に占めるケーキ、ドリンク代等費用の占める割合が25%から30%、それ以上の時もある。グループの諸問題中、改善を要する最重要課題のひとつと思う(代議員個人の意見です)。

*個人よりも彼を育ててくれたグループに献金すべきだ贈り物は不要。

*その個人の問題にすぎない。仲間への感謝を金銭で表わす自由も許されるべきだ。

バースディミーティングでメダルを貰えるのはどういうメンバーですか。

[・自己申告 17 ・その他 51]

*1年ごとに自分で申告すればもらえるが、メダル代は自己負担。ほとんど親しい仲間が個人的なプレゼントとしてメダルを贈るが、グループでメダル代を負担

することの是非を問うてみたい。

*ある程度定期的に出ているメンバー。回数だとか特定の会場しか出ていないとかは問題にしない。

*いろいろな考え方があり、さまざまだと思う。自己申告という基本を忘れてはならないのではあるまいか。本人が欲しいと言えばやってよいのでは...

献金は何に使ったらいいですか。

*AA全体の存続とグループの自立が最優先。6 - 3 - 1制を支持します。将来は広報関係予算書を望みます。

*出版物の購入、およびミーティング会場の茶菓子代、書籍棚の購入。残金が出たら献金をします。

*オープン・セミナー及びオープン・ミーティングに使うことが望ましい。

ミーティング場での献金は、献金袋を回す、献金箱を置く、どちらにしていますか。その理由は？

[・箱 58 ・袋 7 ・両方/自由 3]

*袋だと、時としては、相手に対して何か要求すると思われる。献金のスタイルは箱の方が良いと思われる。

*献金袋を回しています。箱の場合、コーヒー代との意識が生ずるが、袋だと純粋の献金の意識が生じ金の集りが多いのが現状である。

グループはGSOをどう活用していますか。

*グループでの特別な行事、人事変更、会場時刻変更、他地区グループとの連絡、メッセージ先の病院施設等について知りたい事を伝えてもらう。

*他グループの情報源、グループの活動が伝統に外れる、外れないといった問題の相談相手。

*出版物の購入、メッセージの連絡場所、他。

*まだどのように活用してよいか、わからない。

会場のお礼、及び後始末は？ (利用のしかた)

[・毎月お礼 21・2カ月に1回 1・3カ月に1回 1・年2回 14・年1回 3・定期的にお礼及び後始末 22・白紙/]

*お礼は定期的にはできないので、献金がある程度たまるとしている(会場はすべて教会)。

*1カ所だけ毎月の献金の形でお礼をしているが、他は年末に1回感謝献金の形で。後始末は使わせてもらう前よりも美しくが原則。たばこのスイガラは持ち帰り、途中のゴミ箱へ。

グループのミーティングのレギュラーメンバーは何人ですか。

- ・2 ~ 5 人 12
- ・6 ~ 10 人 32
- ・11 ~ 15 人 13
- ・15 ~ 20 人 4
- ・21 ~ 25 人 2
- ・30 以上 2
- ・白紙 3

伝統ミーティングをやっていますか。

[・やっている 25・やっていない 40・白紙 3]

*やっている。月1回。以前はスピーカーを頼んでしていたが、今は「絵でみる伝統」を使ってグループ内でやっている。

*月1回インターグループで開くが、伝統の一つを読んで「むづかしいナー」と言って終わってしまうことがほとんど。

*まだやっていません。最近、この事に関するグループ内の関心が盛り上がりつつある。現状はビジネスミーティングにおける伝統テキストの通読。

グループで、どういう係がありますか(代表的なものとして)

*代議員正・副、グループチェアマン、会計、書記、BOX916係、病院施設委員(2名)、病院メッセージ窓口係、定期的スピーカーミーティング窓口係、各会場の会場チェアマン各1名。

ビジネス・ミーティングをどのようにやっていますか。

[・月1回 28・月2回 1・毎週 2・やっていない 5・ミーティングの内容を書いた人 21・白紙 8]

*その月の収支決算をプリントして、その場に来た仲間に渡す。そして来月期を決め、ゲストスピーカーを呼ぶ時は、その仲間のネームを話す。及び常任委員会、関東サービス委員会、地区委員会の話をする。その他。

*毎月第5木曜日。グループチェアマンの司会による。伝統テキストの通読後、議題討議に入る。出席率良好。時間(90分)が足りなくなるのが悩みのタネ。

グループから常任委員会への質問はありませんか。

*グループの発生する問題の処理の時、対グループ相談窓口を開いて欲しい。

*JSOに関しては、アノニマスが守られているように思いません。AAの生命はアノニマスです。いろいろな報告書あるいは実行委員長の名が実名になっているのは疑問です。

*伝統に従って、独走をしないように。

*郵便物をまとめて発送してはどうですか？

*郵便物に日本ゼネラル・サービス・オフィス又は日本サービスオフィス(JSO)と表示してあるが、AA日本サービスオフィスとすべきだ。NTT登録はAA日本サービスオフィスとなっている。電話番号案内104番の登録もあいまいである。

*12&12、ビッグブック等の書籍を読み易くして欲しい。(フリガナをつける)とかの意見が有りますが、どのように思いますか？

*AAの中でよく使われる英語の辞典はないでしょうか。

*委員は普通のメンバーよりミーティング及びステップミーティングに出るべき。

以上のアンケート結果を基に、グループの経験を分

かち合い、AAについて語る『サービス・フォーラム』を以下の通り開催します。是非たくさんのメンバーに出席戴き、グループに関して日頃疑問に思っていることや意見を、幅広く交換していこうではありませんか。

第1回関東甲信越地区 サービスフォーラム

日時：7月16日(土) 17日(日)
場所：国立オリンピック記念青少年総合センター
参加費：1,000円
宿泊費：1,250円 食費：朝420円 昼550円
夜600円
申込：6月30日までにJ S Oへ

<総務委員長>



九州地域ラウンドアップ のご案内

アルコールに振り回されて、どうにもならなくなり、問題を山ほど抱え、病院で第3章を反省、後悔をし、あれこれ模索している自分にメッセージを届けてくれたのがAAメンバーであり、お膳立てしてくれたのが病院でした。ミーティングで、会い続ける努力をするならば、そこにハイヤーパワーが仲間を通して自分に新しい生き方のエネルギーを与えてくれるという確信を頂きました。

まだ苦しんでいるアルコール依存症者にメッセージを運ぶという、霊的なプログラムの実践をさせてもらっている今、個人の回復のみにとらわれず、視野を広く、グループの成長にも目を向けて行こうと思います。

中央から距離のあるローカルのAAにあっては、鎖国のAAという感じ(社会の中にあるAAでなく)があるように思います。飲まないでいる今も、AAだけで回復している、また誰の世話にもなっていないというAAオンリーになり、視野の狭いツイステップ・ダンスの飲まない酔っ払いができあがっているように自分自身そう思います。

全国の仲間の力を貰い、我々アルコール依存症者に関わっておられる関係者の方々とのかち合いを持ち、まだ苦しんでいるアルコール依存症者への刺激となればと思い、下記の要項で九州地域ラウンドアップを企画いたしました。全国の仲間、九州のグループに力を下さい。

テーマ：「アルコール
からの回復」

このたび、下記の要項に「88AA九州地域ラウンドアップ」を開催する運びとなりましたので、御案内申し上げます。

記

開催日 昭和63年8月19(金) 20(土) 21(日)
会場 雲仙国民休暇村(長崎県南高来都小浜町 諏訪の池) TEL: 0957-74-9131
参加費 3,000円(参加費と宿泊費は別です)
宿泊費 一泊(2食付き) 6,400円
二泊(5食付き) 13,400円
宿泊なし(2食) 3,000円~
申込締切日 昭和63年7月19日
尚、宿泊人員が220名になり次第、締め切らせて頂きますので御了承下さい。

県営バス JR 県営島鉄バス
長崎空港 → 諫早駅 → 小浜温泉
諫早駅行 小浜・雲仙行
県営島鉄バス
→ 諏訪の池口之津行

*国民休暇村の御協力を頂き、29人乗りマイクロバスが小浜温泉まで行ける範囲で迎えに来て頂けます。

詳しくは各グループ又はJ S Oまで

(03)590-5377

AAコンベンションの お知らせ

関東地区インターグループ

南多摩米軍レクリエーション・センターに於いて日本AAメンバーと外国AAメンバーの集いが開かれます。両国メンバー達が経験と力と希望そして喜びを分かち合っており、お互いにソブラエティの親睦をより一層深めて戴きたいと思っております。多くの仲間が参加して下さいようお願い致します。

なお、前もって正確な参加人数が必要なので、下記の期日迄にお申し込み下さい(御飯がありますのでお早めに)。費用の払い戻しはできませんのでご了承下さい。

また、コンベンションでのスピーカー或は進行係に参加したい方は6月20日までにJ S Oへお知らせ下さい。

テーマ：『飲まなくなっても人生はあるさ』
日時：8月14日(日) 15日(月) 16日(火)
場所：南多摩米軍レクリエーション・センター
参加費：¥2,000.-
宿泊費：ドル換算につき、約¥13,000.- (食事込み)
申込：J S Oまで

締め切：関東地区 7月20日

関東地区以外 7月10日

主催：関東地域インターグループ

(外国メンバーによる関東地域グループ名)

「本邦初公開ビッグブック・セミナーを終えて」

吹き抜ける風もさわやかな晴天の5月8日。東武線の「西新井大師」駅前の青年館で、本邦初公開のビッグブックセミナーが期待と不安の中で第一歩を踏み出しました。

ビッグブック第1章から第11章までを、各メンバーがスピーカーにあたり、更に、ビッグブックの説明、ポケット版の紹介も折り込まれました。最後には、東京タワーグループのアメリカのメンバーのスピーチで、通訳を通して、彼らのビッグブックに対する考え、接し方に触れることもできました。

日本では、ビッグブック・ミーティングは各グループの中であまり行なわれておらず、AAプログラムの正面にあたる筈のものが、脇に置かれてきました。今回、城東地区サービス委員会がビッグブックだけに焦点を絞ったこのセミナーは、日本で最初のもので画期的な計画のものでした。

司会者の巧みなスピーチに導かれて、各章のハイライトの紹介、各スピーカーのビッグブックを通しての熱の入った個人個人の経験の分かち合いは、そこに参加した100人以上のメンバーの心に「ビッグブックの価値」を正確に植えつけたことでしょう。必要な人には、ポケット版のビッグブックを貸し出したり、また、販売図書もビッグブックだけという巧みな運営は、参加者全員に何か訴えるものがあったように思われます。

今後、ビッグブック・ミーティング、ビッグブック・セミナーの開催、巻末の個人の物語の再編集に熱い期待が注がれています。今日のセミナーは、その先駆けとなった事と思われま

す。一日が過ぎて「静かな中に熱意を感じた」と司会者が語り、それぞれのメンバーの心の中に何かが生まれ、スタートしたことを、今日の雰囲気から感じました。今回のセミナーの情熱が、参加できなかったメンバーにもこだましていくことを心から祈りたいと思います。

広報委員

いざ鎌倉！！ 秋のラウンド・アップ

期 日：10月 8, 9, 10 日

場 所：鎌倉市由比ヶ浜海岸

ホテル「花月園」

費 用：1泊2食 7,500円×2 = 15,000円

参加費： 検討中

申込締切：9月7日

(メ切日厳守でお願いします)

第二回東北ブロック コンベンション顛末記 岩手インターグループオフィス

僅かに岩手山に残雪を見ることのできる5月29日(日)朝からのあいにくの天候、さらに、前代未聞の12時受付開始・12時30分開会・18時閉会、途中休憩10分だけという条件とスケジュールにも拘りもせず、北は青森から南はそして東京から、各関係機関の専門家・家族・関心をお持ちくださる一般・聖職者の方々、そして多くのメンバー、総数122名のご参加を戴きまして大会の目的とすべく東北ブロック勿論のこと、他ブロックのメンバーとの強力なメンバーシップを分かち合い、また関係機関の皆様との尚一層のコミュニケーションを図ることができ、無事終えました。

ここに、計画立案されてから開催中はもとより、事後処理に至るまでを、ご参加くださいました皆様には誠に失礼とは存じますがここに顛末記としてご報告することをお許しください。

昨年12月のある火曜日、私達が仙台グループのミーティング場で、仙台の仲間から「第二回東北地区の集りは主題はともかく盛岡だっチャー！」という問いかけを受けたと記憶します。私は勿論のこと、その場にいた岩手のメンバーは皆おっちょこちょい揃い。先のこと何事も考えず愚かにも速やかにOK。盛岡へ帰る車中ではひたすら“ルンルン気分”…。今度は盛岡だ！…。グループが誕生してから1年2ヶ月で大きな仲間の集いが持てる。一番最初に頭に浮かんだことは～今までどのグループも企画したことのない立派な集いにしよう。そしてみんなの注目を浴びたい～昔の古い考えであった。その時、自分の愚かさ気付かなかった。

年が明けてから具体的にスケジュールを組んでみたが、案内状は開催日より1ヶ月前半迄に各機関の専門家及び各グループへ届いていた方が良い事の必要性をメンバーや病院関係者からアドバイスされ泡を食らいました。この時点から、現実との戦いを一人でしょうとし、分かち合いを忘れていた愚かな自分自身に気付かされた。気楽になれていないことを知り、先にテーマが決まった。『気楽にやろうよ！』今考えると誠に自分勝手である。自分で気楽ではないのでかたくなな部分を分かち合おうと。その後本当に気楽になれた。岩手にも数は少ないがメンバーはいるし、宮城インターのメンバーにも協力して戴こう、歴史を持ったグループの集りなのだから、直ちに当インターとの合同企画が決まった。

みんなと相談の上、次に決ったことは、どんな会場であるにせよ参加費の上限は500円にすること。

JSOとも相談しながら開催日は5月29日と決定してはみたものの、当日は大安吉日のため、会場探しに難航していた矢先、これぞハイヤーパワー、仲間が昔の仕事の関係で今回の会場を探してきてくれた。後は、各係が責任を持って相互にコミュニケーションを

取っていった。病院の関係者の多大なるご協力のもとに専門家向けのご案内状を作成。三沢米軍基地 A A メンバー向けのもは、やはり私たちの良き理解者でもある米人教授宅を訪問して翻訳・ワープロ印刷をしていただいた。感謝。

各県の専門家の方とメンバー、のスピーカーが集計され、スピーカー・タイムスケジュールも作成し、当日参加者全員に配布予定となり、その他の準備も各係からの報告を当インターグループオフィスのチェアマンが集計し準備万端とのこと。開催日前日のことである。まさにタイトロープだ・・危うくセーフ！

いよいよ当日。117通の出席との葉書を頂戴しているものの、果たして何名参加して下さるものか？妄想か？でも心配することはなかったのである。参加総数は前記の通りなのだから。しかし陰ながら仙台グループの仲間の提案により「盛岡へ行くならコンベンション開会前にわんこそば大会を」とホームグループのメンバーへ呼びかけてくれたことを心から感謝申し上げます。

いよいよ開会。休憩をはさんで前半司会者である仙台グループのメンバーによる開会挨拶から始まった。タイムスケジュールに添ってオープニング・セレモニー。青森のメンバーのスピーチ、同県専門家の方のスピーチと坦々と進行するなかにも名司会者のジョークを混じえたトークにより、始めは固かった雰囲気も次第に和らぎ、A A 流の笑いも出はじめた。青森の専門家の医師は、将来的に三沢・八戸・十和田の3地区に是非 A A グループが欲しいとのこと。三沢 A F B のメンバーとも会議し、実現可能な方向へメンバーも含め積極的である。福島県の専門家の医師は、“ころころ病患者”と我々を表現しながらも、今後もアル中との拘りは諦めず続けてくださると熱意あるスピーチ。しかし自分で治療方針を立てることなく来院し余り手を焼かせないでほしいと・・ここで大爆笑。宮城の専門家の医師は、我々は99%普通の人間と変わらず、残りの1%があまりにも問題が大き過ぎると指摘され、1%の部分を A A で個々充分自覚し、回復へ努力するようにとのアドバイスを賜り、誠に有難うございました。同県の、もうお一方の専門家の P S V は、受付で病的ともいえる克明なスピーカー・タイムスケジュール表を受け取った瞬間吹き出しちゃった・・・とのご発言。またもや大爆笑。作表した本人は慌てて「まだ回復しきれいていませんので」と理由づけに大わらわ。これ私！

岩手県は開催地でもあり、各お立場の違った3名のゲストスピーカーの専門家の方々にスピーチをお願いしました。県内で唯一アルコール問題と積極的に取り組み、「ア症連絡会議」を長年にわたり継続している地方振興局生活福祉部の S W より「ア症連絡会議」の説明があり、また、A A が発足したことに依り<危険の分散>ができ大変助かるとのこと、病院の C W からは、現在 A A のメンバーがお世話になっている福祉事務所に大変感謝している。県内における福祉部及び福祉事務所は今以上にア症者に強く協力を求めるご発言

がありま心た。

ゲストスピーカーとして終りに病院の精神科科長の医師より、A A と知り会ってからア症者に対する治療上で大きな変化を覚えたこと、プライベートの本音の部分・アカデミックな内容としては、ア症を軽いものから順に、
、
、
、
と4分類され、A A は、
、
のア症者しか対象にはしていないだろうか。もっと
、
のア症者にも手を差し伸べる必要性をスピーチされ、私たちは大きなサジェッションとして受け止めることができました。

メンバーに関しては、常日頃のミーティングの通り、素直に、正直にありのままを、日本人、アメリカ人を問わず、笑いと感激の涙を交えスピーチして戴いたこと。A A はアメリカでスタートしたものであるが、我々アル中にとって国境も人種も皮膚の色にもこだわることなく全てを超越していることを肌で知ったことも、今コンベンションの大きな収穫でありこれが本当のフェロウシップと言えよう。

今回コンベンションで得たのは、122名中、岩手県内医療/行政関係者の占める参加率が37.3%と非常に高かったこと、即ち A A とはなんぞや、また A A を正しく知ろうとしてご参加戴いた方々に御礼状を差し上げたうえで、さらに可能な限り直接御礼かたがたご挨拶にお伺いした際、生の声として「素晴らしい12のステップだ」「あの異様な掛け声は何だ」「今日一日・素晴らしい・私の生き方にも応用してみよう」「気楽になれました」「貴方達は良いわね、自分の本音を出せる場所があって」「只ただ異様な雰囲気は、一体何だ」「私も仲間に入れて」「宮古にもグループを」
e t c . そして私たちが得たことは特にステップ1を忘れそうになり、2から12迄の実践を怠りそうになること。何故か、落とし穴が待ち構えているような気がする。岩手における A A は、もう一度生まれ変わって A A の原理を忘れることなくミーティングを維持していくことではないかと新たに気付かされました。

第二回東北ブロック・コンベンションを滞りなく終了できましたことも各関係機関の方々、各インターと多くのメンバーのご理解とご協力の賜物と改めて厚く御礼申し上げます。

カッペ

☞ グループ便り ☞ 東中野グループ

私たち A A 東中野グループは、今年の5月から始まった新しいグループです。会場は、J R 中央線、総武線東中野駅西口より歩いて10分位の中野教会で毎週金曜日の P N 7 時から 8 時半にミーティングを行っています。

グループのメンバー各々が、1年~2年ぐらいいの間、他のグループでの活動経験を持っており、A A そして人間社会特有の自由かつ責任の中で、A A の12の伝統を道しるべにお互いのホットでフレッシュな経験を

分かち合い、より濃厚な、より良質なグループとしてのサービス活動を行なっていきたいとグループのメンバー同思っています。

私たちは、今日一日、アルコール中毒者が一杯の酒に手をつけずに生きるのを助けることで、その手助けをするわれわれもまた、今日一日、飲まないでいることができるという、このAAプログラムを基に、新しい仲間の回復に向けて、同じ地区のグループや他の地区のグループ、そして地域社会、専門分野の方々と手をつなぎ、見えない力を分かち合いながら、お互いに協力して、伝統1にのっとったAAの一体性そしてAAを通して社会の中での一体性にかみあうよう努力していきたいと思っています。

メッセージ活動を行っていく中で、アルコール依存症は病気であり、たとえ頭がよくても、お金を持っていても、貧しくても、女であろうとも、若かるうとも、それには関係なく誰でも体質を持っていればなりうる病気なんだということを、私達の経験を基に伝えていければと思っています。そしてAAのキャンパスには裏口入学は一切なく、AAミーティングに出続ける中で、酒をやめたい願望を基にこの方法に従っていった人にだけ、平等に飲まない喜びが与えられます。たとえ貧しくとも、ミーティングを通して、回復そして幸福が与えられると私達は信じています。それは一人ではできず、数多くの仲間との分かち合いがあってこそなので、これからもグループのメンバーと協力し、グループ活動を続けていきたいと思っています。



AAグループ 「その2」 ミーティング・プログラム

各グループが自分たちの回復・成長をしていくのに、種々のミーティングが行なわれている。そのやり方は、伝統4に基づき「全てのAAグループは自律的である。但し、他のグループまたはAA全体に影響を及ぼす事柄においては、この限りではない」と言われているように、そのやり方は、グループの必要に応じた各種のミーティングを選んで行われて居る。

通常、クローズドミーティングとオープン・ミーティングとに分けられる。

★クローズド・ミーティングとは

アルコール中毒者だけのミーティングで、一番多く行なわれている。次のようなやり方があげられる。

テーマ・ミーティング—司会者から出されたテーマを中心とした形式ばらない話し合い。

ステップ・ミーティング—我々の回復の基礎である12のステップのミーティング。多くのグループでは、週1回ぐらい、このステップにあてている。一つずつ順番にか、或は、一度に2つか3つのステップを学んでいるミーティングで、司会者が少し自分のことを話し、メンバーが次々に話をしていく。

ビギナーズ・ミーティング—新しい仲間を手助けするためのミーティング。そのため、通常小人数で、質疑応答もできる。

ビジネス・ミーティング—グループが円滑に運ばれ将来のためのグループの指針（伝統2参照）を得るために、各係が自分たちの仕事の状況を報告し合いグループにとって必要なことを話し合うミーティング。

ディスカッションミーティング—グループ或いはメンバーたちの問題や質問に対して各人が自由に思いつきを出し合ったり、自分の経験を通した話をし、仲間と分かち合いをするミーティング。ここでは、一人が話している間、他の人たちは批判も議論もしないで黙って聞いているよう、一人が長時間話さないよう、他人の話をしないよう、司会者は気を配るようにするとよい。

この他にもグループによって、伝統ミーティングやリビングソーパーミーティングなどを開いているところもある。

オープン・ミーティングとは、

メンバー以外でも関心のある人は誰でも出席できるミーティング。

次のようなミーティングが挙げられる。

オープン・スピーカース・ミーティング—前もって選ばれたメンバーが、自分の話、つまりかつてどのように、何が起って、今どのようなか語る（多くはスピーカーはよそのグループから招かれる）。スピーカーは3ヵ月以上のソプラエティを重視している。

地域によっては、マス・メディアに於る「無名」を尊重して司会者は次のことに念を押して声明文を読みあげている。即ち「AAを代表して話す人間というのは一人もいないので、このミーティングで語られることは、AAの意見というのではなく、そのスピーカー個人の意見であります」と。

オープン・ディスカッション・ミーティング—アルコール中毒者でない人たちの出席が認められたディスカッション・ミーティングで、司会者の要請があった場合を除いては、ミーティング中は発言しない。

パブリック・ミーティング—形はオープン・スピーカース・ミーティングであるが、メンバー以外の人たちの理解を深めることを目的としたミーティングである。いろいろな関係者の方々を招待し、メンバーの話の外に、すぐれたゲスト・スピーカーの話を聞くことができる。

以上、「AAグループ参照」

なお、ミーティングの始まりあるいは終わりに、アノニミティ（無名の集まり）を尊重して「司会者の心得」を読まれることを提唱したい。